

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 1174300416 | | |
| 法人名 | 加納商事株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホームゆうあい本庄 | | |
| 所在地 | 本庄市見福3-8-9 | | |
| 自己評価作成日 | 平成21年12月31日 | 評価結果市町村受理日 | 平成22年3月19日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1194300065&SCD=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社ユーズキャリア | | |
| 所在地 | 埼玉県熊谷市宮前町2-241 | | |
| 訪問調査日 | 平成22年2月18日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <p>当ホームは閑静な住宅街に在り、目の前に公園があります。春になれば庭にバラが咲き近隣の人達に親しまれている。 利用者様は庭に出て伸び伸びとした気分を味わえる。ホーム内にも季節の生け花や絵画が飾ってある。 清潔をモットーにして穏やかな生活の場を提供しています。利用者、職員が共に笑顔で生活をしています。</p> |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>ホーム長以下、職員は「あなたの心、生活を大切に」と入居者一人ひとりに「やさしい心とあたたかい心で」細やかな介護を提供している。気候のよい時期、晴天の日はほぼ毎日散歩をし、公園や買い物に出掛けたり、庭やウッドデッキでお茶を飲んだり、バラの花を眺めながら外気に触れ、地域の方たちと交流している。清潔で快適な生活を提供する為に、行き届いた清掃と臭気のこもらない施設に力を入れている。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ホームの複数箇所に理念を掲載し目に付くようにしている。職員は理念を見て初心に帰ったり、介護に悩んだときに理念を振り返り、方向を見失わないように活かしている。 | ホーム名「ゆうあい」の由来を柱に、地域密着型の意義も加えた4項目の基本理念をホーム内に掲示し、折にふれ目にする事が出来るようにしている。採用時研修の際ホーム長が説明している。又、現場の実例等を取り上げ、ミーティングや職員会議で検討し、共有に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 外柵のバラが素晴らしいことから、近隣では「バラのホーム」として有名であり、花を通して地域とのふれあいができている。また、ホームの前が公園になっていることから、公園に来た人々や子供との交流も持つことができている。地域からのボランティアの来訪もあり、地域との交流は盛んである。 | 自治会に加入し、行事への誘いを受けたり寄付金に応じたりしている。外柵のバラを眺めに来られた方に切ってあげたら、後日お返しに切花が届いたという交流もある。又、野菜の差し入れ、柿もぎの誘い等もある。向いの公園で子供と触合ったり、馴染みになった方と会話を楽しんだりしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の小学生や教師が学習の一環として訪問し、認知症の理解や接し方など体験してもらった。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は、利用者、家族、地域代表、民生委員、管理者、職員等の参加により、2ヶ月に1回開催されている。会議では、外部評価での結果等についても伝えるとともに、参加者の意見を聞き、ホームの運営に活かしている。 | 2ヶ月に1回開催している。市の生きがい課の職員もメンバーに加わった。外部評価の結果を開示し意見交換がなされている。ホームとしてもメンバーから寄せられる市の情報を共有し、サービス向上に努めている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議での結果を市に報告しているほか、市の窓口で相談に行ったり、役所の生きがい課から利用者の紹介がある。また、認定調査の際には市の担当者が訪問してくる。毎月空き情報の交換を行っている。 | 要望や課題があれば相談に出向いている。又、認定調査の際は市の担当者が来訪して来る。市内のグループホームの空き情報の公開を要請し、実現した経過がある。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、利用者への安全面の配慮から、家族の了解を得た上でやむを得ず施錠しているが、外出傾向の把握及び見守りや支援はなされている。 | 身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、玄関の施錠については、様々な情報や経験から入居者の生命を預り、守るという責任上、家族から理解と了解を得て、やむを得ず行っている。今後状態が安定期となったら改善を検討する。又、外出願望出現時には、付き添いがついて近辺を歩いて来る等の対応を行っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 難題を抱える利用者様に対しては、全員でかわりを持ち、ひとりで負担を負わないようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護の研修を受けていて、利用者様の中でも該当者がおり、市役所と連携し、相談しながら支援しています。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前に重要事項説明書等で説明して理解を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 介護記録の開示に依り、家族と利用者様の意見を聞き運営に活かしている。 | 玄関に意見箱と用紙を設置してあるが、面会時に生活の様子を伝え、介護記録を開示し、入居者、家族と話す中で、要望や苦情等を聴取するようにしている。体重減、運動量増等の要望、紛失物への苦情等が寄せられ、職員で検討し、改善した。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ホーム長や管理者とともに、時々会食を設け、意見や提案を聞いている。 | 月1回、ユニット毎に定例の職員会議を行い意見、提案を出し合っている。職員のヒアリングでそれらが確認できた。又、不定期に職員とホーム長・管理者のコミュニケーションを図る場をもち、意見や提案、気持ち等を汲み上げ、運営に反映するよう心掛けている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 資格保持者や勤務実績に依り、給与を考慮している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部の研修へ職員全員が参加することは業務上困難なため、研修を受けた者が、他の職員に伝達する内部研修を開いている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協議会に加入しており、事例研究発表など積極的に取り組んでいる。他法人のグループホームとのネットワークもあり、情報交換ができています。また、近隣に新しいホームができた際は見学している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居間もない利用者様に対しては職員が寄り添い、受容しながら信頼関係を築いている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に家族と相談等で関係づくりを努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 希望があれば相談に応じる。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者と職員は尊重しあい、お互いに感謝の気持ちや嬉しい気持ちを表現している。気をつけて帰るように職員が利用者から声をかけられたり、なかなか笑わない方が笑ったりすると職員も嬉しいと感じている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者の様子を随時伝え、相談し支援している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 友人、親戚など、いつでも受け入れている。 | お盆、正月に家族や親せきの方が多く面会に訪れる。墓参り、一時帰宅(調査日も1名おられた)等で出掛け、馴染みの食堂へ立ち寄ったり友人と会ったりする方もいる。隣人、友人、休日の家族の面会は多く、随時受け入れている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 気の合う仲間を隣席にしたり、職員が仲に入ったり、又、輪になってゲームや足湯、歌などを行いコミュニケーションをとっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去先の機関と連携を図っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 初めの面談では、本人の背景や生活歴などをよく聞き、どんなことをして過ごすのが良いか一緒に考えるようにしている。入居後は生活を共にする中で、本人の表情や行動から思いや意向に気が付くことが多く、職員間で共有し把握に努めている。 | 1対1で話しかける場を多く持つようにしたり、傍らに寄り添う中でつぶやいた言葉や表情から思いや意向を知るようにしている。それらを記録したり、内容によってはミーティングにかけケアに活かすようにしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居相談の時、アセスメントを行っている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人一人の違いを認めて趣味を活かした生活を出来ることを支援している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 家族等と話し合いを行うとともに、現場の職員の意見を取り入れ、日々の介護の細かい内容まで介護計画を見るとわかるように作成されている。 | 日々のミーティングや介護記録、職員会議での個別アセスメントとモニタリング、面会時の家族との話し合い等々を基に職員が話し合い、現状に即した介護計画を作成している。定期的な見直し、状態変化があった時は、その都度検討・作成し、家族の了解と同意を得ている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 期間に応じた見直しのほか、状態に変化があった際や、家族や本人の意向を取り入れたい場合に職員で話し合い、見直しを行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 食事の要望を取り入れたたり、通院のための支援をしているほか、入院した場合には見舞いをし、入院中の洗濯をするサービスをするなど、状況に応じた支援を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域有する公園を利用し地域の人々と交流している。また、アピタにも買物に出掛けている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医療機関の医師による往診が毎週あり、24時間の電話対応、臨時の往診も可能である。協力医以外にかかりつけ医がある方には通院介助の支援をしている。 | 協力医が毎週往診に訪問。3ヶ月毎に栄養状態等のチェックもしている。緊急時は24時間対応してもらえるよう連携がとれている。入居前のかかりつけ医への受診に付き添い、薬の変更や受診結果を家族に報告している。歯科も往診して頂ける体制が出来ている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師に頑固な便秘や、その日の体調の変化など伝え、看護師は医師の指示を受け支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 家族と相談して入院先の病院が決められている。その病院の相談員と連携をとっている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期に向けた方針については、真剣に話し合いがされている。早い段階から家族、職員、主治医の話し合いがされ、協力医と家族との面談により考えを確認し合い、方針を明確に伝えている。看取りの経験はないが、協力医の指示に従い慎重に行い、条件が整えば可能と考えている。 | 主治医、家族、ホーム間で話し合い、主治医と看護師の連携、夜間対応について検討し、家族に説明している。可能な限りホームで過ごさせたいとの要望に応えられるように、関わり方や方針を随時検討し、支援している。入院時は毎日見舞いに行き、容体を把握したり、洗濯物を引き受けている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルに基づいて行動できるようにミーティング時等に確認し合っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回、地域の方にも声をかけ協力してもらい、消防署の職員にも来てもらって防災訓練を実施している。また、日中だけでなく夜間の災害を想定した訓練も行われており、災害時の備蓄として水・パン・高カロリー栄養食などを備えている。 | 年2回地域住民にも呼び掛け、消防署の指導のもと避難訓練を実施している。見学の方も加わり消火器での消火体験をして頂いた。又、夜間想定訓練では毛布を即席の担架にしての救出を実施した。火災以外の災害訓練、緊急時対応訓練も必要性を感じてはいるものの、実施していない。水、パン、高カロリー栄養食等の備蓄もある。 | 年2回の訓練で様々な試みが行われていることが理解出来た。懸案の火災以外の災害訓練、又、職員数の少ない夜間の通報訓練や、地域住民の協力体制等を取り入れたワンランクアップの訓練が期待される。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりを理解し、性格を把握して尊厳をもって対応している。プライバシーの配慮に関しては、トイレの出入りにアコーディオンカーテンを設置するなど様々な工夫がされている。また、書類や個人情報の記載されたものについても、事務所内で取り扱いに配慮している。 | 日々の生活の中で一人ひとりの個性を把握し、声掛けや対応に工夫している。プライバシーの確保としてトイレの出入りにアコーディオンカーテンを取り付けている。又、プライバシーを確保しながらも中の様子が分かるように暖簾を取り付けた。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 職員は利用者様が自分の思いを言葉などで伝えられるような問いかけをしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの生活リズムやペースに合わせて、できるだけ希望に沿った支援となるように努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 2ヶ月に1度の床屋さんの訪問時に希望の髪型にしてもらっている。又、化粧ボランティアや外出時にオシャレして出掛ける。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 調理専門の職員を配置し、栄養豊富な食事が提供されている。また、食事には利用者の好みの物や旬の物を採り入れ、目でも楽しめるようになっている。食器にもこだわり、美味しく食べられるような工夫がされ、また、利用者もできる範囲で片付け等積極的に行っている。 | 献立は前もって作成せず、入居者と共に食事をしながら好みや食べたいものを聞き、季節の野菜を中心に食材やバランスに配慮しながら考え、提供している。薄味を基本に油分を減らしたり、摂取能力で粥食や刻み食等個別に対応している。箸、カップは個人用を席に用意している。調理への参加は下ごしらえ程度である。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの状態に合わせた形状の食事を提供し、時間をかけてゆっくり食事できるように支援している。また、摂取量をチェックして把握するとともに、状態によっては医師に相談して指示を仰いでいる。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、それぞれの利用者の状況に応じて口腔ケアを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 利用者様の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。 又、利用者様の仕草等で声かけし誘導している。 | 排泄記録を参考に自力排便を促すよう、食品、運動、タオルの温マッサージ等を試みている。排泄のパターンは職員が共有し、誘導、声掛け、介助を行いながら、おむつ使用の方も、出来る限りトイレでの排泄が出来るよう支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 厨房と相談し、食事の支援の他、歩行運動の励行、看護師による腹部マッサージを行ったり、医師へ相談する。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 冬は週に2回、夏は3回入浴できるようにし、希望に応じた時間帯で支援している。入浴しない曜日の午前中には、フロアで足浴をしており、終わるとケアスタッフが足のマッサージをしている。足浴をすることにより、入浴を拒否する方がいなくなった。 | 北棟・南棟で月・水・金、火・木・土曜日と交互に実施しているので、体調に合わせて入浴出来る。午前と午後、個浴で支援している。入浴日以外の日には足湯を行い、マッサージを施している。(調査日も足湯につかりながら職員と歌を歌っていた) | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人になりたい時は居室にて休まれている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員は服薬の理解をしており、薬の変更があった場合は利用者様の様子をよくみるようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 当番を決めるのではなく、個々の性格を把握し、その方に合った役割を支援することで、喜びや張り合いのある生活につなげるようにしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天候がよければ、ほぼ毎日外出しており、近くの公園、花屋、菓子店などに日常的に出向いている。家族が面会時に利用者々と外出することも多い。また、花見や外食、行事などに出かけることもある。 | 天候の良い時期、晴天の日はほぼ毎日散歩。公園、買い物等の外出支援をしている。又、ホームの庭やウッドデッキも外気浴や周囲の花、風景を眺めるに好適な場所となっている。面会に来られた家族と散歩に出掛けたり、時には花見や誕生会、外食等平素と違った雰囲気も味わえるように工夫している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 当ホームは原則として、お金の所持を行わないが、立替金により支援している。希望があれば家族と相談している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族に許可を得て電話している。年賀状や暑中見舞を書いている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホーム内外ともに掃除が行き届き、花や緑に囲まれ、清々しい生活ができる環境である。玄関には生花、ホーム内には花粉症の利用者への配慮で本物と見間違えるような造花が上品に飾られている。ウッドデッキからは庭や公園が見え、季節を肌で感じることができる。全ての居場所が明るくなるように工夫され、居心地の良い共有空間が作り出されている。 | リビング兼食堂、各ユニットをつなぐ廊下は共にゆったりとした広さがあり車椅子での移動、歩行訓練、ゲームなどにも活用できる共用空間である。リビングの一角やトイレ前には待つ人のために夫々ソファが置かれ寛げる場所になっている。清潔に細心の注意を払い行き届いた清掃がなされている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 思い思いの場所にて編物をしたり、TVを見たり、気の合った人たちで雑談している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室も掃除が行き届き、臭気もなく清潔感がある。本人や家族の好みの物を置けるようにしてあり、居心地良く過ごせるような配慮がされている。 | リビング兼食堂を囲んで各居室があり、窓からの採光が良く、明るい間取りとなっている。ベッド、小ダンスの他は個々に調度品が置かれ、仏壇が飾られている居室もあった。個々の室にはホームでの生活のひとつまであるスナップ写真や作品が飾られていた。風邪で寝込み、居室で昼食を摂っておられる方もいらっしゃった。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 野菜の下ごしらえ、洗濯物たたみ、新聞折り、掃除等をしている。利用者様同士の支え合いができています。 | | |